

『分散型コンパクトシティ』を目指して

グループ1

道林英鉄
永井彩花
磯野恵

伊藤沙也加
桑原瑞生

目次

- 1 宮津市庁舎の現状
- 2 第1回、2回市民会議の振り返り
- 3 提言
- 4 まとめ

宮津市庁舎の現状

【概要】

- ・ 約60年前の、昭和37年（1962）6月に完成
- ・ 世界的な建築家である丹下健三氏の門下生であり、京丹後市峰山町出身の沖種郎によって設計される
- ・ 市域のランドマークであり、非常事態時において防災活動の中核を担う最も重要な公共施設である。
- ・ 宮津市役所庁舎（本館、新館、別館）はいずれも耐震安全性を満たしていないこと等から、おおむね5年以内の実施を目標として更新することとしている。

第1回 市民会議 (1班)

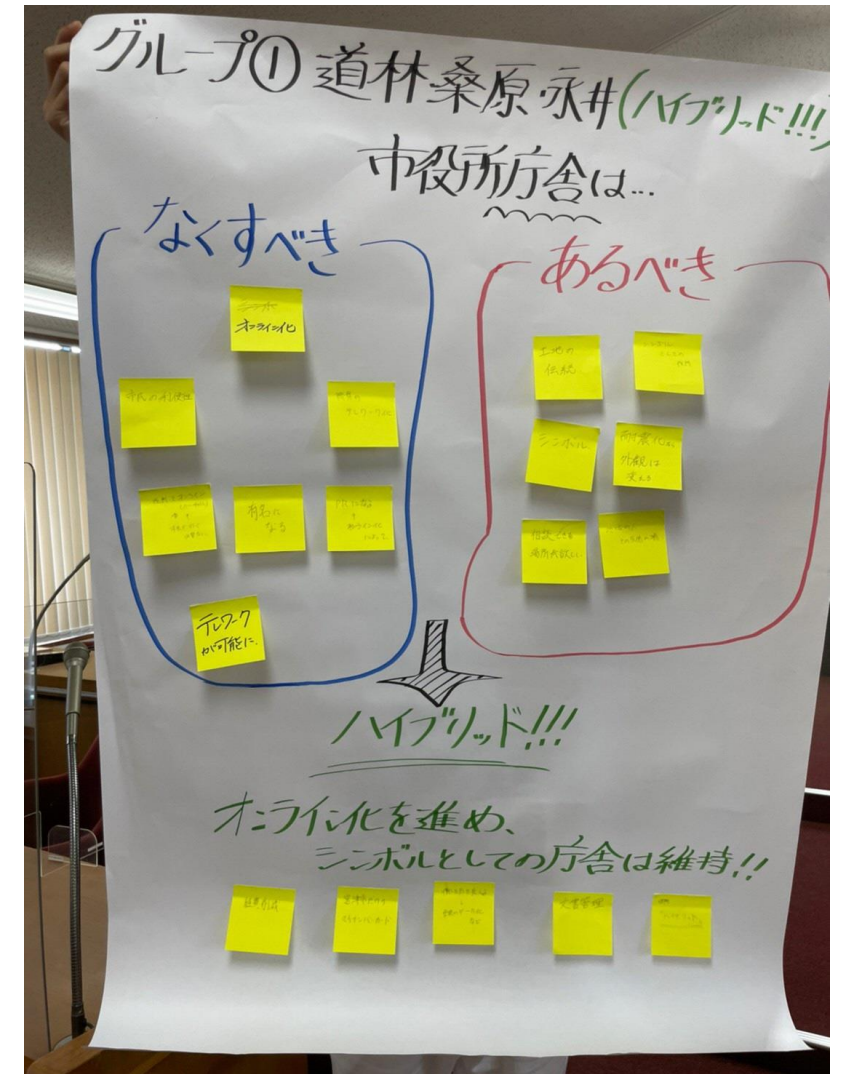
『バーチャル市役所の実現』

【なくすべき】

- ・ オンライン化
- ・ テレワークを可能に
- ・ 市民の利便性

【あるべき】

- ・ 町のシンボル
- ・ 市民の相談窓口の必要性
- ・ 土地の伝統



第1回 市民会議（1班）

「市役所庁舎をなくすor残すの2つの方向性を討議」

- ・なくす方向の意見：オンライン化による利便性向上、**なくすことによる市のPR**につながる。テレワークなど職員の新たな働き方の実施、刑務所のような印象など
- ・残す方向の意見：**地域のシンボル**である。耐震化すると外観は変わってしまうなど

◎まとめ：オンライン化を進める一方で、市の象徴として庁舎を維持存続させる⇒**ハイブリット型**

第1回 市民会議（1班）

【課題】

- ・ **オンライン化**への道のり（多大な資金と時間の浪費）
- ・ **緊急時（災害時）**における配慮
- ・ 市民の**交流の場**（相談窓口など）の確保

第2回 市民会議（1班）

【事例研究 1】

- ・ 大分県 津久見市庁舎の事例

「津波避難ビル」

- ・ 避難場所の形成
- ・ 司令塔機能
- ・ ピロティと柱頭免震構造

「集客交流拠点施設との一体化」

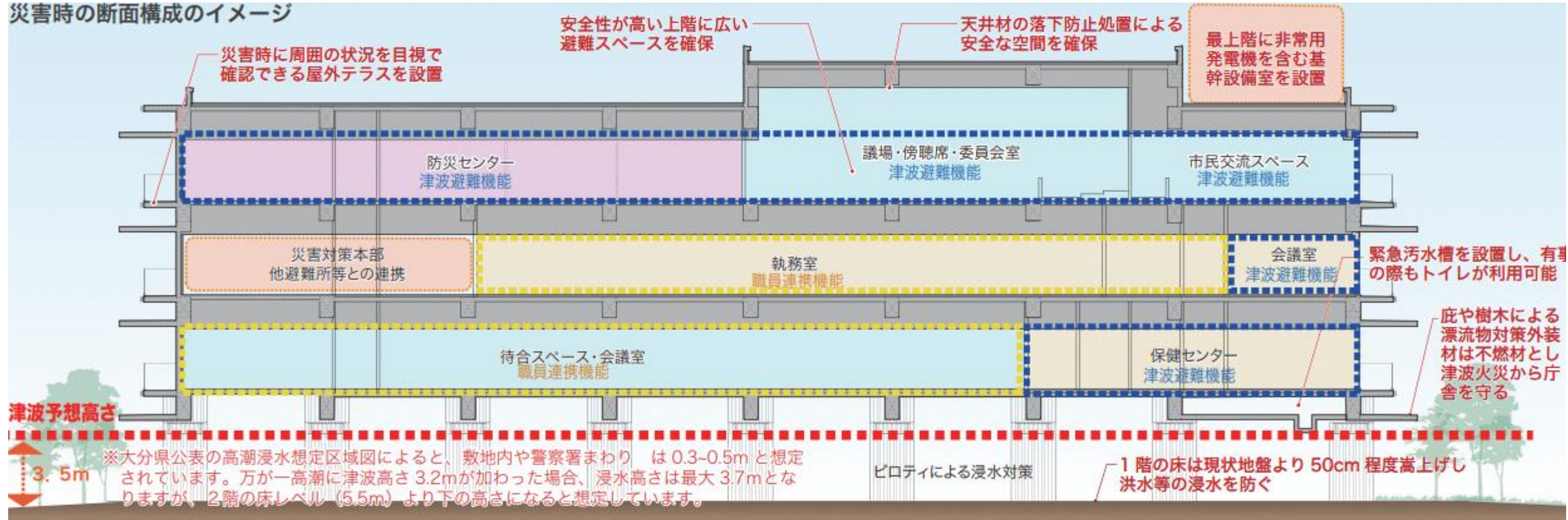


※津久見市新庁舎建設実施設計等業務より参考

提言

【事例研究 1】

災害時の断面構成のイメージ

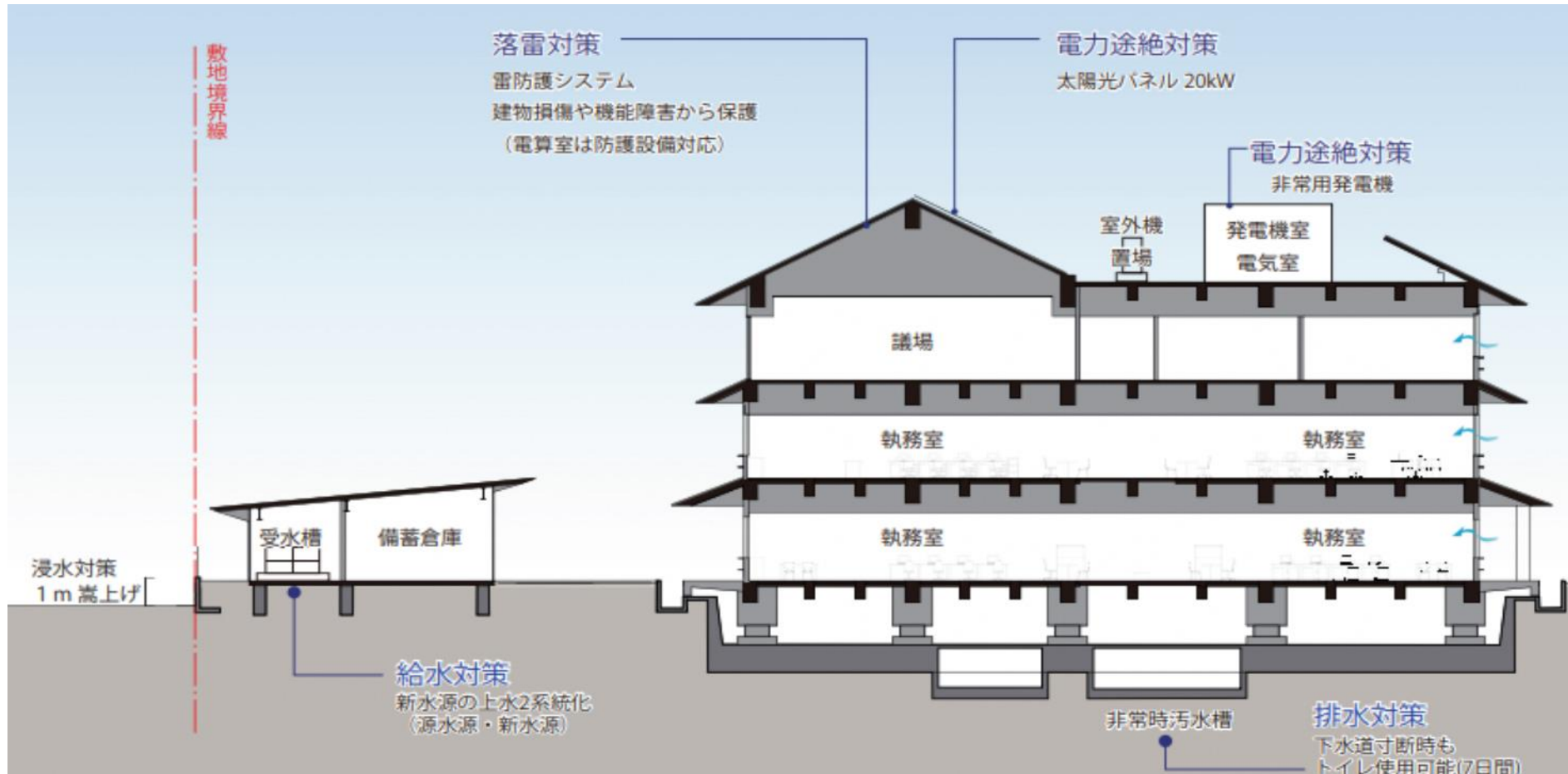


※津久見市新庁舎建設実施設計等業務 基本設計概要書より抜粋

第2回 市民会議（1班）

【事例研究 2】

- ・ 高知県 安芸市庁舎の事例



※安芸市新庁舎建設基本設計より抜粋

第2回 市民会議 (1班)

- ・ 本庁舎、別館の解体
⇒ 市民のコミュニティスペースの確保
残りの部署の集約
- ・ 一般市民の方が多く利用する部署ミッブルに基本は移す
- ・ 「**歩ける距離**」で完結する施設づくり
- ・ 分散型と集約型のメリットの両立を目指す



第2回 市民会議（1班）

●分散型に関して、現在、本庁舎とミップルで分散しているが、市民が直接出向いて手続きを行う部署については、ミップルに集約をすることで、市民の利便性の向上を図ることができる。本庁舎、別館は取り壊し、**1階は駐車場等防災機能**、2階はカフェ等市民が集えるスペース、3階は事務スペース、屋上は宮津市内の景色を見られるスペースにする。別館も**市民の交流スペース（カフェ等）などに整備**する。

●**ミップルと本庁舎は分散**させ、コンパクトシティの観点も取り入れ、駅等からも市民が**歩いていける**導線をつくり、人の流れを作り出すようにする。

【本庁舎】

- ・ 完全に建て替えを行う
⇒ 場所は現在の本庁舎と変わらない
- ・ カフェの設置（市民の憩いの場）
⇒ 宮津市にカフェなどの休憩スペースが少ないことから
- ・ 1階を駐車場にするなど（防災機能の充実）
- ・ バリアフリー等の整備

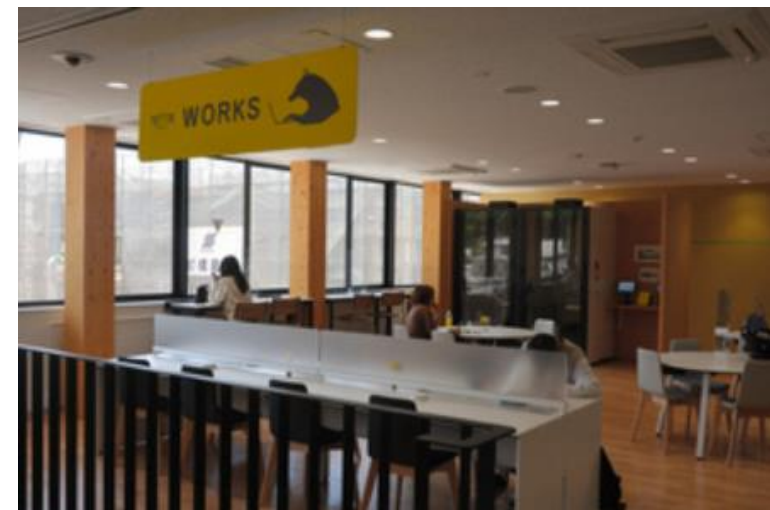
【ミップル】

- ・ 市民が多く利用する部署をミップルに移転する
⇒ **ミップルに部署を集約することにより、市民の本庁舎との往来を削減できると考えられる。**
- ・ 現在の建物や、子育て支援等の基盤は**維持する**
⇒ 「にっこりあ」など施設に加えて、様々な部署に行くことが可能になるため、利便性の向上が図られる。

提言

【別館】

- ・ 本庁舎と同様、**完全な建て替えを行う**
- ・ **市民の交流スペース**として活用する
⇒ **コワーキングスペースの建設や公園（広場）の建設**



【分散型コンパクトシティ】



- ・ 本庁舎、別館、ミップルなどで機能を分散
- ・ 同じ建物への集約を避けることで、災害時における対応の幅が広がる



- ・ 分散させた建物を「歩いて移動可能な範囲」に配置する。
- ・ 歩いていける距離に配置することで、人の流れを生み出すことができる

まとめ

- ・ 市民が活用する部署⇒ミッブルに集約
- ・ 本庁舎及び別館は完全に建て替えを行い、市民の交流スペースなどを設ける
⇒市役所が市民にとって親しみのある場所に
- ・ これらの施設を「歩いていける距離」にまとめる
- ・ 市役所をシンボルとした地域活性化に繋げていく

参考文献

宮津市「市役所庁舎のあり方について」 (2022) <https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/1/13645.html> (2022年9月20日閲覧)

高知県安芸市「安芸市新庁舎建設基本設計」 (2020) <https://www.city.aki.kochi.jp/download/?t=LD&id=5784&fid=40888> (2022年9月19日閲覧)

大分県津久見市「津久見市新庁舎建設実施設計等業務 基本設計概要書」 (2021)
https://www.city.tsukumi.oita.jp/uploaded/life/21307_44968_misc.pdf (2022年9月20日閲覧)

朝日新聞「米原市役所本庁舎にコワーキングスペース 8月オープン」 (2022)
https://www.asahi.com/articles/ASQ5C74H7Q5BPTJB007.html?iref=pc_photo_gallery_bottom (2022年9月20日閲覧)

京都府福知山市「市民交流プラザふくちやま概要」 (2021年) <https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/soshiki/39/2033.html> (2022年9月18日閲覧)

北海道砂川市「砂川市庁舎建設基本計画」 <https://www.city.sunagawa.hokkaido.jp/shisei/chousya/kihonnkeikaku.html> (2022年9月20日閲覧)

国土交通省「官民連携とは PPP/PFI」 <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/1-1.html> (2022年9月10日閲覧)

ご清聴ありがとうございました

